コミュニティ活動助成

越知谷大楽交実行委員会

兵庫県神河町

山間地域の閉校校舎を活用した暮らしの安心拠点づくりと公共交通網見直しの提案活動

2022年11月に旧越知谷小学校で開催した「オッタニ・やまびこマルシェ」

兵庫県のほぼ中央に位置する神河町は、面積の約8割を山林が占め、県内市町で最も人口が少ない。旧越知谷小学校区は、町の南北を貫く鉄道や主要道路から少し離れた北東端にある

団体設立経緯

2020年3月末に神河町立越知谷小学校が閉校しました。校区内地域が跡地活用しようとする動きはなく、同年9月に神河町は跡地活用事業者の公募を開始しました。

地域の女性の中に「校舎の一部を使って活動したい」とする意見があり、これを受けて事業提案のために同年11月、当実行委員会を設立しました。地域おこし協力隊を配置して、地域活動に限定せず場を広くシェアしながら、見い出した事業者を空き教室に逐次誘致するスキームを考えていました。この公募には落選しましたが、神河町から選定事業者への働きかけがあり、当実行委員会に施設の条件付き利用が認められました。

活動概要と活動対象範囲

実施した事業は大きく以下の4つです。①マルシェなどを通じた場への愛着醸成活動、②コミュニティバス運営の見直しを見据えた地区内巡回バス試乗会、③子どもたちが遊びながら学ぶサイエンスキッズセミナー、④高齢者が所持する古い写真のデジタル化や映画鑑賞と絡めたカフェ活動の試行

神河町の越知谷地区を対象範囲とし、将来的には旧越知谷小学校を地域拠点とすることを想定して活動を展開していきました。

活動に至った理由や背景

神河町の取り計らいによって、校舎と別棟の旧幼稚園舎は無償で常時利用可能、校舎内の図工室などの特別教室は時間貸しで対応という条件が、選定事業者から示されました。22年4月の事業開始に向けて、高齢者がアクセスしやすい図工室などを借り上げ、バス待ち合いにもなるカフェなどとして活用・運営する想定で試行に取り組みました。

（上）閉校直後の旧越知谷小学校
（下）子どもを対象とした企画「オッタニ・サイエンスキッズセミナー」、茶畑で昆虫を探す

活動内容と成果

本助成決定と時期を同じくして、神河町では旧小学校区単位で地域自治協議会（以下、自治協）設立が進められるとの情報を得ました。当初から、越知谷小学校の旧校舎を自治協の活動拠点として使うように促す想定だったので、千載一遇の好機と考えました。

そこで、越知谷ブロック役員や集落支援員就任予定者にコンタクトし、「旧小学校を拠点とし、交通の見直しも盛り込んだ地域づくり計画案を一緒につくりませんか」と相談を持ちかけました。肯定的な反応もありましたが具体的な話には至らず、23年4月の自治協設立を目指し粛々と進行する旨が町広報などで伝わってきました。これ以上待っていても協業は期待できないとみて方針を転換し、自治協設立の前提となる地域づくり計画に取り込んでもらえるように、積極的な場づくりの活動を先行することにしました。

「図工室を事業者と地域の共通サロンにしていく」という目標に向けて、協力していただける地域の人たちや、越知谷で地道な活動を続ける教員たちと相談して、受け入れられそうな活動を検討し展開していきました。

1）オッタニ・サイエンスキッズセミナー

自治協の先進地のひとつ、神河町の北側に隣接する朝来市・与布土地区などの活動内容を参考に、社会教育、特に子どもたちの学びにつながる活動が重要であると考え、キッズセミナーを始めました。

町内在住の虫博士として有名な高校理科教員・久後地平さん、地元の草木染め職人・足立知穂さんを講師に迎え、「虫」と「草木染め」をテーマとした以下のような企画を順次実施しました。

①6月5日：茶畑でファーブルごっこ
②7月30日：草木染めとライトトラップ

③9月24日：越知川でファーブルごっこ
④23年2月25日：23年活動計画の作戦会議

地域内の子どもたちの参加を期待していましたが、実際に参加したのは加古川市方面や町内他地区の子どもとその保護者でした。回を重ねるに連れ参加者と講師役、スタッフの良好な信頼関係ができ、口コミで少しずつ広がりを見せています。今後は、耕作放棄地をフィールドに子どもたちが望む基地づくりなどを実践しながら、「遊びながら主体的に子どもたちが学ぶ」というコンセプトに寄り添う形で活動を広げていく予定です。

2）オッタニ・やまびこマルシェとバス試乗会

図工室を地域サロンとして活用する方法については、「本を介した場づくり」と「本棚オーナー制度」を軸にしたいと考えました。そこで、古書店経営や一箱古本市企画など古本を介した学びやつながりの経験が豊富な、古書みつづみ書房店主の三皷由希子さんを招いて、場づくりの検討を進めました。コーディネーターは、コミュニティデザインを得意とし、越知谷との関わりも深い納屋工房代表・長谷川香里さんにお願いしました。

まず10月2日、「本とカレーとコーヒーと」と題したイベントを開催。喫茶や昼食、レコード鑑賞など楽しみながら、どのようにすれば場への愛着を育むことができるか、みんなでアイデアを出し合いました。その結果が、11月5日に実施した「**オッタニ・やまびこマルシェ**」です。文化祭的な盛り上がりを目指し、婦人服や精肉のお買い物、ハンドマッサージ、蓄音機でのレコード鑑賞などの企画を盛り込んで、普段では体験できない楽しい1日となりました。

このマルシェの日には、地域内を循環するジャンボタクシーを手配し、「小回りが利く定時運行型コミュニティバス」も体感してもらいました。試乗会に先立っては自家用車で想定コースを試走、住家が張り付く農道にも入り込む様子を動画編集して公開し、越知谷ブロック役員に情報提供しました。

併せて、10月23日に地域で開催された「秋の大収穫祭」で予備的な試乗会を実施。この時体験した人からは、「家は近くやけれど、折角なので実家の辺までぐるり回ってもらい、友人たちと小旅行を楽しむことができた」という感想がありました。運行委託事業者の意見も踏まえて実運行ベースの運行計画に見直し、11月5日のマルシェでの実施に至りました。

「オッタニ・やまびこマルシェ」では喫茶の提供などと併せて、ジャンボタクシーの試乗会も開催した

当日、地元の方々に利用を依頼したところ、歩行が不自由な人たちを連れ出し、帰りも自宅まで送り届けるという事例が見られました。「楽しいコトのある場があって、バスの待ち合わせができる」、そんなコミュニティ交通の意義を感じていただけたのではないかと考えています。

3）オッタニアルバム編集会議と映画・漫才・落語などの上映試行

ハレの日として盛り上がったマルシェの後は、「図工室の普段使い」の試行に重点を置いて活動しました。

11月27日には、兵庫県加古川市の映像制作会社アーベントロート代表の藤城達也さんを招き、長谷川香里さんとともにオッタニ・デジタルアルバムの構想を練りました。後日のオンライン会議では三皷由希子さんも加えて議論。その結果、どのような形式で公開するかといったテクニック面や、地域の魅力発信といった外向きの視点ではなく、①懐かしい写真をスキャンしながらお茶を飲んで昔話をする、②デジタル化した写真を同窓会や老人ホームなどでの会話に使ってもらう、といった、地域内のコミュニケーションを促す方向を想定して進めることにしました。

さらに、ふれあい喫茶運営に関わる人たちからも意見を頂戴し、映画や漫才、落語などが手軽に楽しめるように、DVDプレーヤーやプロジェクターなどの機器を整備。試写をしながら、地域に多い高齢者が好みそうなコンテンツや媒体について検討を重ねていきました。

4）活動拠点の変更

上記3）の活動では、古い写真にまつわる会話や、映画を鑑賞しておしゃべりなどの楽しめるコンテンツを提供し、「カフェ＋α」という形で定着させることを狙いました。試行を繰り返して意見のフィードバックをいただきながら、形にしていきました。旧越知谷小学校の跡地活用事業者にも活動への関与を期待しながら活動しましたが、使用許可者の立場を超える関与はありませんでした。

一方、中心部から離れた旧越知谷第二小学校については、跡地活用事業者に運動場や校舎内を開放してもらい、キッズセミナーなどを実施する機会がありました。特に、2月25日に実施した23年活動計画の作戦会議では、調理室で事業者スタッフとともに昼食をとるなど、打ち解けた関係性が構築できました。翌週の3月5日にも玄関口を借りて、当委員会の今後の予定を検討する会議をオープンカフェ形式で開催することができました。

今後キッズセミナーの舞台となる耕作放棄地との距離が徒歩5分程度ということもあり、当委員会の活動拠点をこちらに移動することにしました。旧越知谷小学校から6.4km、車で約10分の奥地になりますが、駐車場や子どもの遊び場となる運動場を開放してもえらえることで、活動の自由度は高くなることが見込めます。

課題と解決方策

当初は活動拠点を旧越知谷小学校の図工室とする想定で試行してきました。しかし運動場が全面グランピング事業に活用され、校舎内もスマート農業研究に使われている現状では、共存が難しいことを実感しました。

そこで、活動上の制約が緩やかな旧越知谷第二小学校に拠点を変更しました。過疎進行が著しく人口が100人に満たないこの地区において、月2回のセルフカフェや近くの耕作放棄地における活動を通じて、緩やかなテーマ型コミュニティを醸成しながら場づくりを進めていければと思います。

一方、活動拠点の変更に伴って、事業目的に掲げた交通網の見直しについては、一から考え直すこととなりました。ガソリンスタンドや商店、郵便局などが並ぶ旧越知谷村の中心部で旧越知谷小学校もある越知・川井（かわじょう）エリアで、「セルフカフェ＋楽しいコト」のある乗換場を模索していければ、コミュニティ交通の拠点づくりは実現可能と考えています。

新拠点となる旧越知谷第二小学校の校舎（上）と、玄関口での会議の様子（下）。2005年の統廃合後も山村留学の受け入れ施設として利用されてきたが、新型コロナウイルス禍の影響もあり20年に終了、現在は技能実習生の講習施設として使われている

今後の予定

23年4月からは活動拠点を第二小学校に移して、「持ち込みランチもできるセルフカフェ・だんだん」を第2・第3土曜日に実施。近くの耕作放棄地で、子どもたちとの虫観察や農作業などを並行していきます。セルフカフェでは日替わりで、写真のデジタル化、映画など鑑賞会、移動図書などの企画を実施するほか、年3回のマルシェなどによって、場への愛着を醸成していきます。楽しいことが交わる「暮らしの安心拠点」へ向け、場づくりを進める予定です。

越知谷大楽交（おちだいがっこう）実行委員会

2020年11月設立／メンバー数：7人＋サポート8人／代表者：一宮 大祐（いちみや・だいすけ）
●〒673-0016　明石市松の内2-1-3 ダイアパレス西明石401
☎090-5250-3859　✉ichi38dai@iris.eonet.ne.jp
note.com/ochidani/
www.facebook.com/profile.php？id=100083607690650

月2回のセルフカフェ、近隣の耕作放棄地での子どもたちとの虫観察や農作業などを実践します。マルシェなどの企画で場への愛着を醸成し、楽しいが交わる“暮らしの安心拠点”へ向けた場づくりを進めます。